

1. 評価結果概要表

作成日 平成 年 月 日

【評価実施概要】

事業所番号	2371400900
法人名	有限会社 プラン
事業所名	グループホームひまわり苑
所在地	名古屋市緑区大高町字北平部1-76 (電話) (052) 621-2227
評価機関名	愛知県社会福祉協議会
所在地	名古屋市中区丸の内2-4-7
訪問調査日	平成19年 5月31日

【情報提供票より】 (19年5月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成16年 2月 1日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数計	18人
職員数	9人
常勤	6人, 非常勤 3人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2階建ての ~1・2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	119,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(150,000円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	500 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (5月17日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	6	要介護2	8		
要介護3	4	要介護4			
要介護5		要支援2			
年齢	平均 80歳	最低	69歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	平岩病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

玄関の花々が美しく迎えることで、普通の家庭におじゃまするように和んだ気持ちになるグループホームである。
グループホーム内の生活は、利用者が思い思いにゆったりと自然にすごすことができるように、職員もそのことを大事にケアしている。
しかし、全体に入居者の積極的な意欲を一層引き出せるように外出や買物、入浴等に関わる選択肢をたくさん作られるような取り組みが望まれる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の課題を整理し、それまでは、個人情報などファイル等が乱雑に綴られていたものが、改善点として指摘されたのでファイリング等を工夫して誰もが閲覧できるように改善に結び付けるなど努力している。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者1人で自己評価を作成しており職員全体で取組まれておらず、自分達の提供サービスの問題や課題を職員全体で話し合ったり改善したりする機会にはしていない。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、3ヶ月に一回程度の開催で、医療関係者との情報交換が中心であり、本来の目的である地域に開かれた事業運営として、まだ十分な役割を果たしていない。 特に、行政のバックアップや連携を呼び起こす機会として位置づけ、関係者や地域の信頼を築かれるようとりくみが望まれる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	金銭管理の報告も含めて、1~2ヶ月ごとに文書で報告している。苦情箱も設置し、体制は作られており、訪問時に意見を苦情や意見を聞き、計画に反映させているので、サービスの改善やレベルアップを目指す意見聴取としてさらなる活用が望まれる。また、「たより」などの情報提供などの取り組みが望まれる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に入っていることで、そのことを活用したりボランティアとして近隣の方が来所されること等を糸口にして、大いに地域へ働きかけを強められ、ホームに関わる人々のネットワークを広げられることが期待される。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	日々家庭で過ごしているような雰囲気を大切にした理念を作り上げている。	○	地域密着型サービスとして、その特徴は、地域との支え合いを実現することと考え、地域に根づいた理念を作りあげていく取り組みが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの玄関先に理念を手書きにした物を掲示し、職員全員が理解し啓発しており、日々取り組んでいる。具体的には「おむつにしない」等を目指して、実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入したり、近隣のボランティアを受け入れているが、集合住宅が多く近所づきあいが困難な状況である。	○	グループホームが蓄積しているノウハウを町内会を通じて、地域に還元するような取り組みが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	時間がなく管理者のみの自己評価への取り組みである。	○	管理者のみではなく職員や運営者と話合いの時間をとり、自己評価の中から気づきを見つけ、サービスの質の向上につなげると取り組みが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に一回程度の開催で、医療関係者との情報交換が中心になっている。	○	運営推進会議に地域包括支援センターの関係者を入れる等、行政等との連携を取り、広く関係者の理解や支援が得られる取り組みが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	時々、運営についての相談をする関係である。	○	運営推進会議をスタートの機会とし、行政担当者等との連携を強化する取り組みが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭出納簿等は、2ヶ月に一回報告されているが、日々の暮らし振り等の報告がなされていない。	○	ホームでの暮らし振り等、家族への定期的な報告などで家族との関係を密接にする取り組みが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関脇に意見箱が設置されているが、あまり活用されていない。家族の訪問時等に意見を聞き、計画に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等には、配慮する共通認識を持っている。 開所当初は、職員の離職もあったが、最近は落ち着いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任の職員には、管理者から介護の心構え等を伝えてはいる。また、外部研修に参加した職員から復命書は提出されているが、他の職員へのフィードバックするなどのシステム化はされていない。	○	介護研修など研修に参加した職員から提出された報告書は、全職員が閲覧できるようにし、情報の共有化が図れる体制を構築されることが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋東南部の14グループホームの交流会があり、グループホーム同士の情報交換を行い、ケアの質の向上に役立っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に際して、管理者が入居希望者の所まで出向き、入居希望者や家族と面談をし、入居希望者等がグループホームに訪問した時に現在の入居者と一緒にテーブルについてもらい、馴染める雰囲気を工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護しているのではなく、「させて頂いている」と考え、お互いが協働しながら穏やかな生活ができるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに声かけをして、意向などを聞きだそうとしているが、利用者全員とはいえない。	○	全員の入居者について、入居者一人ひとりの状況把握と同時に過去の生活歴などの分析を行い、本人の気持ちに寄り添いながら、理解の共感関係を確立していく努力が望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、計画作成担当者と他の職員の日常ケアの中で、意見がかわされ反映されている。	○	日常ケアの中での意見のくみ取りでは十分でなく、ケアに係わる職員全体で話し合い、ニーズを把握し一層生き生きとした暮らしを作られる取り組みが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月、6ヶ月と見直し時期を定めてはいるが、変化が生じた場合は随時見直しをいっている。	○	見直しは、計画策定担当者だけでなく小さな変化も計画に反映し、共有できるよう多くの職員が係わる機会を作ることが望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の状況に応じて通院や家族の宿泊など必要な支援は柔軟に対応している。	○	利用者にとっても地域にとっても24時間365日の支援システムとなるよう様々なサービスの取組みが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、入居者の係りつけ医師より情報提供してもらい、事業所が連携を取っている医師に情報を提供し、適切な医療行為が受診できるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員の取り組みに対する意欲はあるもののホームとしての方針は立てられていない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者ひとりひとりを尊重して言葉かけし、個人情報も厳重に取り扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が思い思いのスペースで過ごしており、時間が穏やかに流れている。	○	穏やかに過ぎるだけでなく、日中の一人ひとりの過ごし方について、生活の中で意欲を引き出すような役割を見つけ出すなどの努力が望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一部の入居者が配膳や片付けに参加している。食事はほとんどの入居者がしっかり食べ大いに食欲があり、楽しんでいる。	○	食事メニューは、業者の材料配達によるが、入居者が希望した食事メニューなども準備する機会をつくりもっと楽しめる食事の実現が期待される。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	都合で、午前中の中の入浴者があったが、入居者の希望する時間帯とはなっていない。	○	入居者の希望に添えるようないろいろな選択肢の提供が望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ゆったりとテレビをみたり思い思いに時間を過ごしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に沿った支援を心がけているが、散歩に行きたい入居者に職員が手薄な時はあきらめるように説得するなど十分ではない。	○	入居者の前向きな気持ちを大事にして、希望に添えるような体制づくりをするなどの取り組みが望まれる。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員や管理者等全員が鍵をかけることの弊害を理解しているので、鍵はかけていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の連絡先等一覧が掲示されている。また、消防署から職員に来てもらっての消防訓練はされている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食後の摂取量については、その都度記録されており、水分チェックも食事時やおやつ時になされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食堂は、広々としており、風通しや採光も心地良く居心地よく過ごすことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望があれば、居室には使いなれたものが持ち込まれ入居者の居心地に配慮している。		

※  は、重点項目。